

北の子

浜岡北小学校だより 2019年度1月号

＜学校教育目標＞

「たくましさ」と「思いやり」いっぱいの子

＜重点目標＞

みんなで考え みんなで伸びる

スマホやゲームとの付き合い方を誤ったときの代償

11月17日に御前崎市民会館で行った「青少年の未来をつむぐ集い」（御前崎市スクラムスクール運営協議会・御前崎市教育委員会主催）において、講師の今井昌彦氏が「これからの子育てで大切にしたいこと～スマホやゲームとどう付き合うか～」という演題で「ネット依存」「デジタル・タトゥー」「ネットと学力」「身体への影響」についてインパクトのある話をされました。その際、お勧めの本として本校で保護者に貸し出しをしている（本年度末まで貸し出し可）「ネット依存・ゲーム依存がよくわかる本」を紹介されましたが、その後貸し出し希望者が数名いました。聴講した方々が危機感をもたれたからではないかと思えます。

親子関係への影響

最新版のPTA新聞（PTA会長・副会長に配布）に「静岡県親子でつくる携帯・スマホに関する標語コンクール入賞作品」が掲載されていたので、その一部を紹介します。

- ◆小学生の部 ・スマートフォン ママをとっちゃう 私の敵
- ・つなげよう ネットじゃなくて 親子の絆
- ・電池切れ 「子どもを見てよ」の合図だよ



- ◆保護者の部 ・すぐスマホ！ ずっとスマホ！ またスマホ！ 大切なもの 見えている？

親子の絆をスマートフォンに奪われている子どもの切ない訴えが多くありました。では、使用状況はどのようなのでしょうか。以下は、平成30年7月に国立青少年教育振興機構が調査した「インターネット社会の親子関係に関する意識調査」のデータ（日本、米国、中国、韓国の小学生の比較）です。

- ◆親は携帯電話やスマートフォンを使用しながら私と話す

「よくある」「たまにある」の合計は47.4%で、米国に次いで2位。

- ◆私が、親と話そうとすると、親は「時間がない」、「今は忙しい」などと言う

「よくある」「たまにある」の合計は36.5%で、1位。

せっかく親子が一緒にいても、その半数は会話に集中できていないようです。また、「時間がない」「忙しい」の主な理由がスマートフォンであるなら、子どもにとってはまさしく「私の敵」です。このようなことが繰り返されたら、親子の絆はどうなるのでしょうか。そして、心が安定した状態で家庭生活や学校生活を送ることができるのでしょうか。子どもにとっては、「親がいつも自分のことを思ってくれている。」という安心感が生きる力につながります。

体力・コミュニケーション能力への影響

小学5年と中学2年を対象の全国体力テストで、実技8種目の合計平均点が昨年度までは上昇傾向でしたが、本年度は小中の男女とも一転して数値を落としました。しかも、小5男子は、平成20年度の調査開始以降、最低となりました。スポーツ庁は要因として、スマートフォンの普及などに伴い、子どもたちの運動時間が減少していることなどを挙げました。



- ◆週420時間（1日1時間に相当）以上の運動をする小5

・男子…51.4%（昨年度54.0%） ・女子…30.0%（昨年度30.6%）

また、運動の好き嫌い、スマホ使用時間の相関関係も浮き彫りとなりました。

- ◆スマートフォン使用時間5時間以上 ・運動嫌いの子…33.7% ・運動好きの子…13.7%

今後、子どもの体力が低下し続けることが心配です。また、運動は人との付き合い方を学びコミュニケーション能力を伸ばす効果があるという研究結果もありますが、このような能力の低下も懸念しています。

（校長 北原 弘明）

